

普及項目	増殖
漁業種類等	—
対象魚類	アマモ
対象海域	天草有明海、天草海

藻場造成活動支援（環境学習）

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭

【背景・目的・目標（指標）】

アマモ場は、「海のゆりかご」とも呼ばれ、魚や甲殻類、イカなどの生息場所や産卵場所として重要な役割を果たしている。また、水質浄化、二酸化炭素の固定、底質の安定化など様々な機能があり、天草管内では、各地でアマモ場造成活動が行われている。

そこで、当課では、水産資源の涵養を目的として、高校生を対象とした藻場造成活動への技術的指導及び環境教育に係る講義を行った。

【普及の内容・特徴】

令和7年（2025年）5月28日に、熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎栽培コースの3年生を対象に、アマモの役割や重要性に関する講義を行った。その後、生徒たちは普及指導員や教諭の指導の下、約150本のアマモの移植作業を実施した。併せて、次年度の種苗確保を目的に花枝の採取を行った。

また、11月5日には、普及指導員及び教諭の指導の下、アマモの播種作業を実施した。

【成果・活用】

本取組みに参加した生徒3名が、天草市が主催した赤崎小学校5年生向けのアマモ学習会において講師として参加し、本取組みで習得したアマモの役割や重要性に関する知識を児童に対して分かりやすく説明した。

また、赤崎漁港で行われたアマモ場造成活動では、生徒が児童に播種方法を指導しながら作業を行った。児童からは「講義の内容を理解できた」との声が聞かれるなど、高校生が学んだ知識を地域の児童へ伝えることで、学びが地域へ波及する取組みとなった。また、高校生が「学ぶ側」から「教える側」になることで、アマモ場の役割や保全の重要性について理解を深めるとともに、地域の環境保全活動を担う人材の育成にも繋がった。

さらに、本取組みは、地元テレビ局及び新聞社に取り上げられたことで、アマモ場造成活動や藻場保全の重要性を広く県民に発信する機会となった。

今後も、学校や地域と連携し、学習した生徒が次の世代へ知識や経験を伝える仕組みを取り入れることで、地域主体の藻場保全活動の継続・拡大につなげていく。

【達成度自己評価】

5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）



図1 アマモに関する講義



図2 移植方法の説明



図3 アマモの移植



図4 花枝の採取



図5 小学生向けのアマモ学習会



図6 花枝入り麻袋の作成